

在職中の思い出

第十六代 北村 晋

創立百年記念誌の発刊、まことにおめでとう存じます。心からお喜び申し上げます。よき伝統と、気宇壮大の校風によつて、ますますのご発展をお祈り申し上げます。

在職中の思い出等ということです、心に残っていることを綴った中から二、三、取り出して見ました。

山城を去つて今年で十四年、桂川を前にして朝夕愛宕山を眺めつつ日々想い出にふける人生の一駒一駒に生徒一人ひとりの成長が私にとっての、まさに「生きる力」になっています。

○ 校名について

「山城」という名は、国の名前であり、その校長であるあなたは高等学校長として、国の指導者を養成することの任務が

ある。是非子ども達のリーダーとして頑張って欲しい。と赴任
早々街の人々から云われたことが第一の印象であり、私の心の
中に山城という二字が大きくめぐったのである。当時そのよう
に言われる公立校はなく、公立はすべて公立であり、その中で
山城が三中時代の伝統を引きついでよき校風を残して、地元で
の運動と勉強での一流校として京都一、日本一の学校にしよう
という朝気がみなぎっていたのである。その声が私の心の中に
今でも去来して、五年間にわたる山城の想い出としてつながり、
この間昭和より平成と言う大きな時代の変革を迎えて、生涯忘
れ得ぬ教師生活での終曲となったのである。

○ サッカー全国大会出場

サッカーと言えば山城、山城と言えばサッカー、サッカー全
国大会に京都府高等学校代表校として出場した想い出は私にと
っては大きなイベントの一つでした。「守り」と「攻め」この
二つの使い分けは人生の若者にとっての大切な教訓、これを身
体で覚え込ませるの出場、森監督（後任の校長）の采配に私自
身が息を吞まされての動きでした。

当時のサッカー選手のOB達も今頃は社会生活での第一線で
このときの感動と感激を胸に頑張っていることと思ひ、感無量

のものがあります。教育で大事なことは「心の目」であり、当時の森先生の目を想い出して頂いて、社会の動静を知り、成果を上げられるように祈っています。

○ 国旗・国歌について

私が赴任した昭和六十一年からこの問題についての入学式・卒業式での取扱いについての論議がなされて、教育・行政等もこの問題で騒然としており、その後国旗の常時掲揚、更に入学式・卒業式における国歌斉唱等、本来静かなるべき教育の場にあつてはならぬ混乱が生じ、校長としてのかかる事態における行動・指導力・責任の重大さ等についても考えさせられる日々であり、今も昨日の事のように想い起こさせられる事柄であった。

○ ボート部の心

これは私が京都府のボート部の部長をしている時の話であるが、心あたたまる話の一つとしてここに上げておきます。

ボート部は競技種目が多いので、休日の朝早くから遅くまで琵琶湖上での競技がつづく、この中で山城のボート部の女子チームの終了が近づき表彰式が始まることになった。

ところが肝心の生徒が見当たらないので、私が探しに出かけると琵琶湖の見える松林の中で、一列に並んで湖上に頭を下げている女生徒を見つけたので、「早く来なさい、表彰式が始まるよ」と声をかけた。後から聞いた話では、今日一日頭張らせてくれた琵琶湖に「ありがとう」とお礼を言っていたとのこと、丁度夕陽が染まる湖の背景と合わせて、思わず胸が一杯になって、彼女達は卒業してから青春のこの日の一瞬を忘れず、互いの友情の心の大切さを胸に強く生きていくことでしょう。



山城 14 回 岡本通雄